写真で見る浪曲人生

3回目

二葉百合歌（ふたばゆりか）（58歳）

「四つの顔を持つ浪曲師の悲恋物語」

写真・森　幸一ほか　文・おさだまもる

ふたば・ゆりか　本名・船山智恵子。東京は豊島区うまれ。16歳、作家・房前智光の紹介で二葉百合子一門に入る。初の芸名は二葉八百子。三年の修業の後、先代・春日井梅鶯のもとで勉強。のち東家楽浦の教えを乞う。昭和44年、船山歌扇と改める。昭和58年に二葉百合歌となる。得意ネタは『唐人お吉』『名工物語　恋のぽたん』

二葉百合歌には四つの顔がある。一つは芸道に精進する浪曲家のそれだ。二つ目は天理教の布教師。三つ目は東京は雑司ケ谷霊園の茶亭（墓守り）で、最後はダジャレの名人だ。

芸歴が40年を越える彼女は今日も元気いっぱい、全速力で生きている。

百合歌師の当意即妙のダジャレは、人生の真理を衝いて奥が深い。

「私は貧乏はしているが、幸福という洋服を着ています」「お札（さつ）よりも、あいさつが大事だ」「お金の勘定より心の感情を大切にしたい」「お金を溜めすぎると、おっかねえよ」「人を信じるという汁を飲んでいる」「前進するなら善の心で」「急ぐときの新聞は朝刊は直観で読め、夕刊は勇敢に省略して読め」とキリがないので、このへんで。

普段の百合歌師の話もサービス精神満点の舞台同様に迫力があり、なにがとびだすか想像がつかない。

「私は変わり者ですよ。捨て身に花咲

昭和49年に歌舞伎座で看板披露。キングレコードから師匠・二葉百合子とともにLPレコードを出した。「親子のレコードはあまり例がありません。師匠は大恩人です」

真心を演出する　　毎月1回「三愛寄席」開催

三　愛　会　館　(3630) 5421

三愛葬祭センター　(3649) 1238

三　愛　会　館　東京都江東区北砂7丁目1番3号

三愛葬祭センター　東京都江東区塩浜1丁目5番18号

く唐人お吉とは私です。今日まで命がけというガケっぷちを歩いてきました」

芸道修業をはじめ、実母との死別や父との義絶、義母との葛藤など他人にはいえない、ただならぬ苦労もあった。

「人間は何度も生まれ変わります。魂を磨いて次の世代にいきたいですね。

さとり上手は身のたから。この世で徳を積みたいですね。いいかげんに生きると徳も毒になります。納得でなく気の毒になってしまいます」

百合歌師は天理教の布教師としても日本中をかけまわっている。

「親が信仰をしていたのでこの道に入りましたが、天理教の信者を増やすのが本意ではありません。世界の幸せを祈りたいのです。人を助けて我が身も助かる、が教義です。宗教という枠にこだわりたくないんです」

信仰は篤く、真柱様と呼ばれる天理教を開いた中山ミキを浪曲化してよいとの公認を天理教からいただいている。なにかスゴイことみたいですね。

ところで百合歌師は独身なのだが、

「それは私も女ですから、なにもなかったわけではありませんよ。ホテルに行こうといわれると体がホテル。モーテルはそれほどモーテルわけない。旅行に行こうは気分が良好でないとダジャレで断ったりね」

有名な悲恋物語があるらしい。

「10年前、ある後援者がこう言ったの。5億円の身代をやるから天理教はやめてオレと一緒になれって。手付に3千万の指輪をもらい心は動いたけど、信仰は捨てられないと指輪は返したの」

3千万円の指輪を、ですか。

「そうなの。あとで周りの人が私に言ったわ。相手は糖尿病で目が不自由なんだからビー玉の指輪にして返してもわからなかったろう、って。ほんと、そうよね。ハハハハハハ」

百合歌師は雑司ケ谷霊園の茶亭（墓守り）もしている。

「親の代からの仕事です。ここには9千のお墓がありますが、私は数百軒の掃除や管理をしているんです。お墓守りでボチボチ暮らしてます。ハカばかしくいかないときもあるけど」

鍛え抜いた芸を持つ百合歌師はもっとネタを増やして積極的に定席や大会に出てもらいたいものだ。

「今日のこの取材を契機に、もっとがんばって出世しますから、みなさん、温かく見守ってください」

平成4年、靖国神社。常陸宮、三笠宮家の方々と。「お徳をいただかせてください」と握手をしていただきました。そのお徳を『男』と聞きちがえた人がいてね。いくらなんでも宮様にそんなこと言えますか。ねえ」

平成6年、安土城天守閣の完成式のテープカットに招かれた。安土町の町長とともに。交際範囲は驚くほど広い。

現在の二代目・春日井梅鶯と。「初代からは、よか声だねと誉められて、いまなお生きる励みになっています」

雑司ケ谷霊園の夏目漱石のお墓の前にて。「有名無名の墓が9千ほどあります。夏目家の墓は任されていませんが、気がつけばどこのお墓も掃除しますよ」

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

26/52

浪曲家の皆さん…頑張って下さい。

多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉